



令和元年6月13日

記者資料配布

大阪経済記者クラブ会員各位

大阪商工会議所設立のカーブアウトベンチャー「株式会社ピオニエ」の 塩野義製薬株式会社との共同研究終了とM&Aについて

【問合せ先】大阪商工会議所 産業部
ライフサイエンス振興担当（吉川）
電話番号：06-6944-6484

本会議所が設立したカーブアウトベンチャー（※注）「株式会社ピオニエ」（本社：大阪府中央区、代表取締役：伊藤 義邦）が塩野義製薬株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：手代木 功）と2015年10月より実施していた共同研究を終了するとともに、塩野義製薬株式会社が株式会社ピオニエの全株式を買い取ることとなりましたので、お知らせいたします。

※注：上場企業等から開発シーズを切り出し（Carve Out）、その企業と一定の連携を保ちながら外部資金と人材を投入してM&Aや上場（IPO）を目指すベンチャー企業のことを指します。

【これまでの経緯】

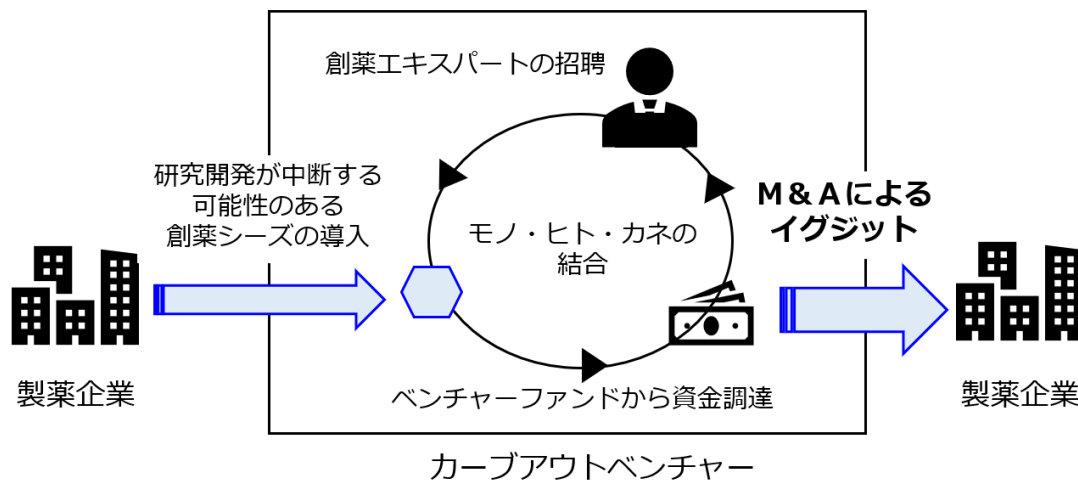
- 新薬の研究開発には10年以上の時間と数百億～数千億円規模の費用が必要であり、また、新薬研究開発の成功確率は年々低下（10年前：1／1.6万→現在：1／2.5万）しており、難易度が上昇しています。これらの環境に対応するため、製薬企業各社は積極的な研究開発投資を続けており、これ以上の研究開発費を積み増すことは困難な状況となっています。この結果、副作用や薬効を確認する以前の段階で、革新的な新薬につながる可能性のある創薬シーズの研究開発を中断せざるを得ないケースが発生しています。
- そこで、本会議所では、2015年に「DSANJ(Drug Seeds Alliance Network Japan)：創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク」事業の一環として、創薬事業化支援スキームを立ち上げ、同年9月に、第1号案件として本会議所が「株式会社ピオニエ」を設立しました。塩野義製薬株式会社から創薬シーズを導入した後、株式会社ピオニエが第三者割当増資を実施し、「大阪バイオフンドをはじめとしたベンチャーファンド」から計4億円の資金調達を実施しました。
- 株式会社ピオニエは、調達した資金を用いて独自の研究開発を実施し、医薬品のもととなる複数の化合物（リード化合物）の創製に成功。株式会社ピオニエが創製したリード化合物は、薬効及び安全性等が高く評価され、塩野義製薬株式会社と株式会社ピオニエの間で、M&Aが合意されました。このM&Aにより、本所が実施した創薬事業化支援スキームの第1号案件が成功裡に終了することとなりました。

【大阪商工会議所の今後の事業展開】

- 医薬品分野においては年々、グローバルで新薬研究開発競争が激化しています。また、先進諸国においては人口の高齢化が進んでおり、日本から革新的な医薬品を創製し続けることにより、日本・世界の人々の QOL (Quality of Life) を高めることが可能となります。
- 本会議所では、日本の製薬企業が各社の特徴を活かして生み出した創薬シーズをスピード感と多様性をもって革新的な医薬品へとつなげていくこのカーブアウトの創薬事業化支援スキームを更に深化させるべく、在阪の製薬企業を中心に本スキームの検討を進め、第2号案件以降の組成を準備いたします。

＜カーブアウト会社を活用した創薬事業化支援スキームのイメージ＞

新たな研究開発機会の創出！
予算の確保と研究開発の加速！
研究開発手法の多様性の促進！



【参考：第1号案件「株式会社ピオニエ」から見た創薬事業化スキームの効果】

2015年9月～2019年5月までの株式会社ピオニエの事業活動における「カーブアウト会社を活用した創薬事業化支援スキームの効果については、株式会社ピオニエ及び塩野義製薬株式会社へのヒアリングに基づく、次の3点に集約することができます。

1) 新たな研究開発機会の創出

⇒社内のプロジェクトとの関係で有望な創薬シーズであってもリソース（研究者、研究資金）が配分されず、結果複数年の間、研究開発が中断するケースがある中で、株式会社ピオニエの場合、ベンチャーファンドからの資金調達に成功し、中断する可能性のあった創薬シ



ーズに対して研究開発の機会を創出することができました。研究開発は、新薬研究開発に関する多くの知見を有する創薬エキスパートにより適切に管理され、実行されました。

2) 予算の確保と研究開発の加速

⇒社内プロジェクトとの関係で期間によりリソース（研究者、研究資金）が十分に配分されないケースがある中で、株式会社ピオニエの場合、ベンチャーファンドからの資金調達に成功し、導入した創薬シーズの研究開発に特化した予算と人的資源を複数年確保することができました。この予算確保により、期間によって異なる必要リソースを適切に配分し、複数のリード化合物の創製までを約3年半で達成することができました。この研究開発の加速にあたっては、招聘した創薬エキスパートの知見・ノウハウが広く活用されました。

3) 研究開発（化合物合成）手法の多様性促進

⇒株式会社ピオニエにて創薬研究開発を進めるにあたり、導入元の塩野義製薬株式会社からは「株式会社ピオニエの化合物合成は自社とは異なるメソッドであり、コラボレーターであるカーブアウト会社と連携することにより、創薬研究開発に多様性を生むことができた」との意見をいただきました。製薬企業の現役研究者とカーブアウト会社の創薬エキスパートが英知を出し合うことにより、新薬につながるリード化合物を複数創製し、今回のM&Aにつなげることができました。

以上